

平成 29 年度  
吉野町煉瓦倉庫記録資料作成等業務

実施報告書  
(概要版)

特定非営利活動法人 harappa  
2018 年 3 月

## 1. 「平成 29 年度 吉野町煉瓦倉庫記録資料作成等業務」について

本業務は、市民に親しまれてきた吉野町煉瓦倉庫に関連した調査及び記録を行い、市民参加型のワークショップやフィールドワークに展開させ、（仮称）弘前市芸術文化施設開設へ向けた気運の醸成と情報の発信を図るものであった。そのために、ワークショップ、展示紹介イベント等、市民が積極的に関わることのできるプログラムを設け、施設へ興味関心を高め、施設への愛着心とともに、「HIROSAKI DESIGN WEEK」を踏まえ弘前への郷土愛を育むものとし、さらに吉野町煉瓦倉庫が文化交流施設として、これからの可能性を広げていくことを目指した。

## 2. 参加型ワークショップ「れんがそうこ部」

### （ i ）開催概要

月に1度の部活動を開催し、吉野町煉瓦倉庫をキーワードに、参加者が自ら興味のあるテーマを見つけリサーチ（現地調査、文献調査、フィールドワーク、ヒアリング等）を行い、その成果をまとめた。本活動では、特別講師としてフォトグラファー・下道基行氏を招き、制作手法や制作に至るまでの準備や調査について学ぶワークショップを期間中に1度行った。

活動報告は「れんがそうこ部」のFacebook ページを作成し、部員以外へも活動をPRするツールとして利用した。約9か月間にわたった本活動を通して、参加者が（仮称）弘前市芸術文化施設への興味関心を高めるとともに、今後、開館後の施設に愛着を持ち、積極的に関わり様々な面で協力してもらえよう環境づくりに努めた。

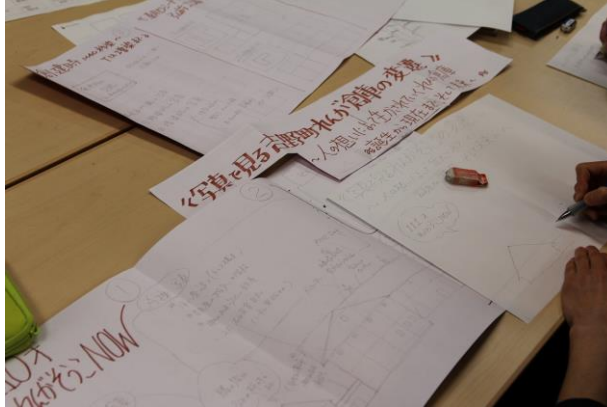
活動時期：2017年7月～2018年3月

「れんがそうこ部」登録人数：21名（募集人数：20名）

参加費：無料

### （ ii ）実施スケジュール

- ・2017年7月15日（土）オリエンテーション「れんがそうこ部について」 参加人数：17人
- ・2017年8月19日（土）部活動1回目「煉瓦倉庫見学」 参加人数：18人
- ・2017年9月17日（日）部活動2回目「煉瓦倉庫の歴史について・アイデア出しワークショップ」  
参加人数：7人
- ・2017年10月29日（日）部活動3回目「煉瓦倉庫見学・下道基行レクチャー」  
参加人数：10人 特別講師：フォトグラファー・下道基行氏
- ・2017年11月18日（土）部活動4回目「煉瓦倉庫リサーチ報告・発表会企画案について」  
参加人数：6人
- ・2017年12月9日（土）部活動5回目「発表会展示物構成について」 参加人数：6人
- ・2018年1月13日（土）部活動6回目「発表会展示物制作および発表会関連イベントについて」  
参加人数：10人
- ・2018年2月3日（土）部活動7回目「発表会展示物制作および発表会関連イベントについて」  
参加人数：7人
- ・2018年2月17日（土）部活動8回目「発表会展示方法および運営について」 参加人数：8人
- ・2018年3月3日（土）部活動9回目「活動の振り返り」 参加人数：8人



( iii ) 特別講師プロフィール

○フォトグラファー 下道基行氏

1978年岡山生まれ。2001年、武蔵野美術大学油絵学科卒業。ある日バイトの途中で公園を歩いて見つけたという太平洋戦争の時に弾丸を打ち込まれたコンクリートの廃墟。以来、日本に残る戦争遺跡を求めて撮影を始める。2005年には、トーチカ、掩体壕、砲台、兵器試験場など、国内に散らばっている戦争遺跡をまとめた『戦争のかたち』をリトルモアから出版。現在は、日本国内にとどまらずアジアに残る遺跡を巡る撮影旅行に出かける。

3. 調査報告、ワークショップ成果物展示および関連イベント

( i ) 開催概要

2017年夏から少人数規模のワークショップやフィールドワークを重ねてきた参加型ワークショップ「れんがそうこ部」の成果発表会を開催した。(仮称)弘前市芸術文化施設の工事着工前に、部員たちが調べた煉瓦倉庫の特徴や倉庫を建てた福島藤助氏の偉業、美術館への道のり、弘前のシードルについてなどを架空の雑誌『Bricks』をイメージしたポスター作成し、展示した。また、展示だけではなく、煉瓦倉庫やその周辺のまち・人の様子についての情報交換会や、煉瓦倉庫を型どった「飛び出すカードづくり」などの関連イベントも開催した。

イベント名：「Bricks ～れんがそうこのすべて」れんがそうこ部 成果発表会

会期：2018年2月22日(木)～25日(日) 10:00～18:00

会場：弘前市立百石町展示館 第一展示室 入場料：無料 来場者数：334名

( ii ) 展示物

① ポスター展示「雑誌『Bricks』」B0サイズポスター 13点、B1サイズポスター2点

- ・ 空想座談会「藤助に聞く！」
- ・ <写真で見る>れんがそうこの今むかし
- ・ 吉野町れんがそうこ 美術館への道
- ・ 弘前シードル初めて物語
- ・ Back to the '50s
- ・ 探訪マップ「福島藤助のゆかりの地」
- ・ 投稿コーナー「わたしにとってのれんがそうこ」
- ・ グラビア「“れんがそうこ”の思い出がいっぱい」
- ・ 妄想美術館
- ・ れんがそうこ占い
- ・ 表紙、裏表紙
- ・ 「吉野桜」「朝日シードル」広告風紹介ページ

② スライドショー展示

- ・ 福島酒造時代 煉瓦倉庫写真 (福嶋家 蔵)
- ・ 朝日シードル工場時 煉瓦倉庫写真 (ニッカウキスキー株式会社 蔵)
- ・ 現状の煉瓦倉庫写真

③ 現在、弘前で醸造されているシードル9点

④ 吉野町煉瓦倉庫で実際使われていたレンガ (長手積み、イギリス積みの2パターン)

⑤ 「れんがそうこ部」の活動で使用した資料の一部





( iii ) 関連イベント

① 情報交換会「煉瓦倉庫について私たちがわかったこと。みなさんが知っていること。」

実施日：2018年2月24日（土） 14時～16時

実施場所：弘前市立百石町展示館 第一展示室内 参加費：無料 参加者：20名

ゲスト：路地裏探偵団 団長 鹿田智嵩氏

実施内容：発表会にて展示された『Bricks』の各コーナーの担当部員が、それぞれ興味を持った点や、構成の理由などを説明し、より深く展示物を見てもらうきっかけとした。また、展示には反映できなかった煉瓦倉庫に関する写真、文献などを紹介した。

ゲストとして、長年福島藤助氏や吉野町煉瓦倉庫に使われた煉瓦を生産した小栗山の工場について調査されていた路地裏探偵団 団長 鹿田智嵩氏に会場いただき、煉瓦工場の場所を特定するまでのエピソードや、“記録すること” “調査すること” についてお話しいただいた。



## ②ワークショップ「れんがそうこの飛び出すカードをつくろう！」

実施日：2018年2月25日（日）10時～17時まで ※時間内随時受付

実施場所：弘前市立百石町展示館 第一展示室内 参加費：無料 参加者：40名

実施内容：4種類の吉野町煉瓦倉庫を型どった線をプリントした用紙を準備し、カッター等で切込みを入れ、折り目をつけ、飛び出すカードづくり体験をしてもらった。また、カッター等の作業が難しい参加者には、煉瓦倉庫の塗り絵を用意し、色付け体験をしてもらった。参加者は子供から大人まで幅広く、熱心に作業をして複数個作る方や、自宅で作業したいと用紙を持ち帰る来場者もいた。



## ③コトリ cafe 特別メニュー

実施日：2018年2月24日（土）、25日（日）11時～18時30分まで

実施場所：弘前市立百石町展示館 第一展示室内

実施内容：百石町展示館内1Fにあるコトリ cafe にて、れんがそうこ部成果発表会に合わせ、大正の“カフェ”をイメージした特別限定メニューを提供してもらった。

特別メニュー：ライスカレー、アイスフロート、シードル

### （v）参加者の感想

#### ○部活動、成果発表会について

- ・成果発表会のワークショップにて、来場者と時間を共有できたのが嬉しかった。
- ・成果発表会の滞留時間が長かった。来場者の吉野町煉瓦倉庫への興味関心が高いと感じた。
- ・成果発表会には年配の方の来場が多かった。「昔のことを思いだすいい機会となった」と直接感想をもらった。
- ・ワークショップへの興味が高かった。実際に美術館ができたときにもやってみたらどうか。
- ・特別講師の下道さんのお話が面白かった。
- ・本活動を通して、他の古い建物や弘前の街についても興味関心が高まった。
- ・発表会に思ったより多くの人に関心をもってもらって嬉しかった。
- ・オリエンテーションの時は、どう形になるか、わからなかったが、このような形で発表できてよかった。
- ・部活で倉庫をみていると、弘前の街が紹介できるようになりたいと思った。多言語でも紹介できるようにしたい。

#### ○（仮称）弘前市芸術文化施設との関わりについて

- ・美術館ができて、このように市民が関わり、能動的に動けるような仕組みがあればいい。
- ・美術館ができたなら、美術だけではなく、煉瓦倉庫に興味もある人もつないでいければいい。
- ・金沢21世紀美術館のような「ミュージアムクルーズ」（教育プログラム）のクルースタッフのように一般市民がスタッフとして参加できるようなものがあるといい。
- ・「れんがそうこ部」の活動は”ボランティア”という呼び名ではなく、”部員”という形がよかった。
- ・これまで煉瓦倉庫やアートに興味を持っていない人に対しても参加を促せる仕組みがあればいい。
- ・子どもが選ぶことができるくらいの、いろんなものを体験できるプログラムがあればいい。

#### ( iv ) レポート

本取組では、参加者各自が煉瓦倉庫について、興味を持った点についてリサーチを行い、自分の得意な、または作業しやすい形にまとめ発表するという、大まかな方向性だけを定め、活動を進める形をとった。参加した部員の興味ある話題や調べてわかった内容を中心に進めることで、発表の形式を柔軟に変化させ対応できるとともに、各部員が参加意識を高く持ち、主体的に活動をしてもらうことができたと感じた。

吉野町煉瓦倉庫や福島藤助、シードル、また当時の弘前の様子や風俗文化についての資料は、運営側である程度は準備したが、それに不足する情報や資料等は、部員自らが調査しまとめる作業を行った。

3回目の部活動では、特別講師としてフォトグラファー・下道基行氏を招き、レクチャーを開催した。自分の興味を持った視点を大切にすることと、その事象に敬意を払い、裏付けを得るためにも調査の必要性を話していただき、部員が調査や表現といった本活動に取り組む上での足がかりをつかめる機会となった。

集まった資料や関心事を、どのように形にし、発表するかを検討する際には、“雑誌”というイメージでその誌面を展示する方向でまとまった。“雑誌”というフレームを借りることにより、部員個人が考えやすい様々なコーナー構成をし、得た情報を第三者（来場者）に見やすく展示物を形づくることができた。さらに、時間の都合で大きなコーナーを担当できない部員の方も参画できるように、短いエッセイや、コーナーアイデアや、校正者として、さまざまに関われる役割を設けて実施した。また、実際に展示するポスターサイズや、文字の大きさ、展示上の動線など来場者に見せるということを意識しながら、部員からの積極的な意見を得て、デザインにつなげることができた。

発表時期が近づき、作業が進むに連れ、きちんと形になるのかという不安もありながらも、作業することの楽しさや、自分たちが調べ、興味を持ったことを、多くの人に伝えたいという思いが高まっていたように思えた。

発表会の展示準備や運営にも多くの部員が参加し、直接来場者の反応を得たことや自分たちがひとつの展示物、展示会を作り上げたという達成感を得ることができたことが、それぞれ貴重な機会になったようだ。

部活の最終回には、和やかな雰囲気の中これまでの活動を振り返った。これからできる美術館に対して、どのような場所になってほしいかなど建設的なアイデアが様々な提案されるとともに、これからはなんらかの形で関わっていききたいという声と、今回まとめた冊子をさらに多くの人に見てもらえることができるといふ意見が多かった。

#### 4. 吉野町煉瓦倉庫調査

##### ( i ) 実施概要

平成 28 年度に、煉瓦倉庫のこれまでの歴史や現在の姿を後世に伝えていくために、煉瓦倉庫の内部空間および外部空間を写真等で記録し、関係者へのヒアリング等を行い、建設から現在に至るまでの経緯等を年表や写真等でまとめた。今年度も、文献調査を継続して行うとともに、広く市民からも情報を募集した。収集した資料等は、本事業後も利活用可能なように資料をまとめる作業を行った。

##### ( ii ) 実施スケジュール

7月下旬～ 新聞・文献等の資料リサーチ

9月5日 福島藤助氏関係者ヒアリング

9月13日 吉野町煉瓦倉庫 俯瞰写真撮影

(桜美苑南川端・屋上およびライオンズマンション住吉町・屋上より撮影)

11月29日 青森県立郷土館にて福嶋酒造関連資料調査

12月1日～ 一般向けに吉野町煉瓦倉庫に関する情報募集告知開始

##### ( iii ) 調査内容

「平成 29 年度 吉野町煉瓦倉庫調査報告書」参照